



医療生協と組合員 をつなぐ架け橋

あなたも

機関紙

『けんこうと平和』の 配布者になりませんか？

現在、約1万人の
配布者(ボランティア)の手で、
毎月11万5,000部以上が
配布されています。



今月号の
特集は……



こんにちは！

最近は
どうですか？



手から手へ 笑顔から笑顔へ

今月も
来ましたよ！



医療生協さいたま生活協同組合

こんな支部もあります！

配布者が見守りサポーターとして活躍中

蕨塚越支部では、『けんこうと平和』の配布者が見守りサポーターに登録し、見守りサポーターカードを持って地域で活動しています。「いつもと違ったところはないか」「何か変わったところはないか」という点に留意しながら、配布しています。

医療生協さいたま蕨市は、2016年7月に見守り協定を締結していることもあり、地域の見守り役として、市からもその活動は期待されています。



『けんこうと平和』の手配り配布数は25年で倍以上になりました

117,100部

50,400部



1992年

93,500部



2002年

2017年7月末

配布者どうしおつながりもあり、それが健康・元気の源です

配布する仲間を増やして、もっと楽しい支部にしたいです

医療生協を支える大事な取り組みだと思い、がんばっています

配布者の声



いつも歩数をはかりながら、健康第一で配っています

まちの季節の変化を感じながら、やっています

読者の方の元気を確かめながら、元気をもらっています

「毎月届くのが楽しみ！」の声に背中を押され、続けています

『けんこうと平和』はこうして配布されます



①毎号、広報委員会で、企画・内容について検討します



②支部や事業所のニュースなどといっしょに個別用に梱包します



④ここまで作業を終えてホッとひと息、笑顔がこぼれます



③梱包したものを配布ルート・配布者ごとにセットし、配布者のところに届けます

配布者は地域の大事な存在です

『けんこうと平和』の配布者は見守り活動や相談相手として、地域ではとても大事な存在になっています。ここでは、新座支部での事例を3つ紹介しましょう。

①危険を察知して、救急車を手配しました

高齢のひとり暮らしの方から「全身がだるくて体が動かない」との訴えがあり、駆けつけて救急車を手配し、入院して一命を取りとめました。40度を超える発熱で、きわめて危険な状態でした。

②介護保険の認定につなぎました

日中はひとりでの生活にもかかわらず、心臓の病気のために退院後の家事一切が禁止、どうすればよいのか

という相談でした。地域包括支援センターへの相談をすすめ、介護保険の認定手続きを行い、配食サービスを受けることになりました。

③ケアマネジャーの紹介から、手術をしました

認知症の奥さんと生活する、腰痛やふらつきがひどいという方からの相談でした。整形外科で受診していましたが、奥さんの担当ケアマネジャーに介護保険の申請を依頼するとともに様子を見てもらいました。脳に障害があるかもしれないとのことで脳外科を受診したところ、緊急の手術が必要とわかりました。2度の手術を経て、現在は、奥さんに寄り添いながら生活中です。

詳しくは、各事業所の組織担当者、または、けんこう文化部 組合員サポート課まで

医療生協さいたま生活協同組合

本部／〒333-0831 川口市木曽呂 1317
電話 048-294-6111(代) <http://www.mcp-saitama.or.jp>



取材協力：
戸塚南支部・木曽呂東内野支部
・鳩ヶ谷中央支部・蕨塚越支部
・春日部北支部のみなさん